

パンジエサケ

夜くらくろてかろ

トア 正午にと すじまの夕干物

かう 光がもれてい

近代的 建物で 今何と存して

伊とま くの家庭分一と思つて

この家の以前は

竹やぶの多る家だ

そのころ

ヒガシ花が咲いてい

それい と言つて

さうそく 切つてさし

ある時 滑もたれりある

さうして下り 不活し

もう家ごと なく

そのまが ぶらり

居酒屋 だ

ユウ便局の人達が 何人が

来てい

その居酒屋も 今はい 建築に

最近存ところも 夢ってしきっていら
 今年もヒガシ花の咲くころ
 マジエ サケとも言われてい、赤い花
 赤い花をマシエサケ
 オラエガ 屋敷に雨あふさ
 と、うろたマキし ころあつていな
 今年も マシエサケの咲くころにきつて来

2024
 10/16

赤い花をク マンジのサガ

オラと分ヤシキ にもあふさ

の物か 流れてゆく 飛鳥 ミウラ タマキの声

ここ今のわ

と西洋風のバウと夕を見

考えてい 丘より 庭いふやうだ

おしやれして 中へ入り ずわ、ことかも

出ると 見はるしおしい

遠く 飛鳥 見えて、 その何かを 出るとい

仁事先で 長崎の案内書、 グループ

参加者のマヒカ也系 此ミウラ タマキ

9 歌の 世界を 見ると系

集り

石舟で かくる、く

その 状況の 動機を 何が 手をもつ、 取つとあ

長崎に見ると